

スクリプトの構造 —2005年の調査から—

松井三枝・荒井宏文

1. 問題と目的

スクリプトという概念は Schank&Abelson(1977)によって提唱されたもので、頻繁に起こる日常的な行動や出来事の系列に関する構造化された知識(スキーマ)を指す。我々は、日常的な行動・出来事について、それを構成する行為・行動を時間的に順序つけて記憶しており、同時にそれに関係する行為者、対象物、場所なども記憶していると考えられる(Schank&Abelson, 1977)。

Schank&Abelson(1977)は、「レストランで食事をする」という出来事を、あたかも芝居の脚本のように、場面ごとに誰がどのように何をするのかを描き、その場面の連続体として表現した。彼らによると、この知識を基に「昨夜レストランで…」という発話が理解される際に、実際に言葉で語られた部分がこの知識の各スロットに値として埋め込まれる(これを事例化の過程と呼ぶ)。語られなかった部分は原型、すなわちデフォルト値のままに残り、事例化された部分を含む全体が相手の発話として記憶され、文章理解に用いられる(太田・多鹿 1991)。

その後、Bower, Black,&Turner (1979) は、自由産出課題を用いて、スクリプトの実在性を実証した。Bower et al(1979)は、スクリプト、すなわち日常的な出来事についての自由産出実験を行って、被験者間に共通の知識が存在し、その知識が文化的統一性をもつものであるかの検討、すなわち、Schank&Abelson(1979)が理論的に提唱したスクリプトという仮説的知識構造が心理学的に実在するか否かの検討を行った。Bower et al (1979)は、ある日常状況について「普通の人々が一般に行っている行動のリスト(約20個程度)を順番に書いてください」という指示を与え、大学生被験者161名に自由産出課題を実施した。日常状況は、5つの場面(①講義に出席する、②医者に行く、③食料品店で買い物をする、④レストランで食事をする、⑤朝起きて学校に行く)の中から1つを指定した。例えば、「レストランで食事をする」では、33名の被験者により、730の行動項目が産出された。そのうち、1名の被験者のみが挙げた項目は4つであり、それ以外の726項目については2名以上が言及していた。より産出頻度の高いものほどその状況(スクリプト)において重要な事象を示していると考えられる(Table1 参照)。他の4つの場面においても同様の結果が得られ、基礎レベルでの行動の記述が得られること、およびその記述は文化的な共通性を有することが示され、スクリプトの実在性が明らかとなった(太田・多鹿, 1991)。

これまでの研究により、人は様々な日常的な行動を記述するスクリプト持っていることが考えられる。我々が冗長度の低い文章を理解することができ、また会話が可能となるのは、話者と聴者の双方が同様のスクリプトを保持しているためであると考えられる(坂根・桑原・野村, 1981)。

Table1 Bower らの第一実験の結果(レストラン)(Bower et al,1979 より引用)

- <レストランに入る>
 ドアを開ける
 入る
 予約した名前を伝える
 席へ案内されるのを待つ
 テーブルに行く
 席に着く
 飲み物を注文する
 ナプキンをひざに置く
 メニューを見る
 メニューを検討する
 料理を注文する
 話をする
 水を飲む
 スープ、またはサラダを食べる
 料理が届く
 食べ物を食べる
 料理を食べ終わる
 デザートを注文する
 デザートを食べる
 会計を頼む
 請求書が来る
 代金を払う
 チップを置く
 コートを受け取る
 立ち去る

◎ 55-75%以上が言及 ○ 40-50%以上が言及 無印 25%以上が言及

我が国におけるスクリプトに関しては、坂根他(1981)の研究がある。坂根他(1981)は、日本の大学生に対して、16の場面におけるスクリプトの構造(それらを構成する事象、状況、行為等を)を調査した。さらに、MOP(Memory Organization Packet)理論(Schank, 1980)に基づいて、それらのスクリプトが目標や状況の変化によって修正されるかについても検討を行った。その結果、16の場面における日本人のスクリプトの構造が明らかとなり、目標によって(例えば、映画館に行く際に、観たい映画を観に行くのか、デートをすることが目標なのか)スクリプトの持つ構造に差異が生じる可能性が示唆された。

スクリプトの検討は、健常者のみならず、精神障害を有する患者においても重要な課題のひとつとなっている。これまでに、統合失調症患者のスクリプト構造に、精神症状に左右されないある程度一貫した偏りが示唆されること(Corrigan et al, 1992)、および統合失調症患者の言語障害の背景として、このようなスクリプト構造の偏りの可能性が見出されること(Chan et al, 1999; Matsui et al, 2005)などが報告されてきた。

現在、精神疾患患者のスクリプト構造の検討を行うに当たって、健常者のスクリプト構造の基礎資

料が近年では収集されておらず、現代に即したスクリプトの調査が必要であると考えられる。

本研究の目的は、第一に現代の生活体におけるスクリプト構造を明らかにすることである。なお、現代のスクリプト構造に関する基礎資料を収集することにあわせて、坂根他(1981)の調査との比較を行うことで、時代の変化に基づくスクリプト構造の差異の有無についても検討することとした。

2. 方法

[第一調査(自由産出調査)]

現代のスクリプト構造を知るために、Bower et al(1979)、および坂根他(1981)の手続きにしたがい、無記名自記筆式の質問紙調査を行った。心身共に健康な者 197名(男性 116名、女性 81名)を対象とした(T県内の短期大学生 44名、H大学の学生 62名、およびT大学の学生 91名)。平均年齢は 18.8±1.7(SD)歳であった。調査時期は 2005年 5月～6月であった。場面は、坂根ら(1981)の先行研究の中から、特に現代においても身近なものと考えられる場面を設定した。設定場面は 9場面(①映画館に行く、②デパートで服を買う、③スーパーで買い物をする、④カレーを作る、⑤電車に乗る、⑥喫茶店で飲食する、⑦レストランで食事をする、⑧風邪を引いて医師にかかる、⑨タクシーに乗る)である。

講義前、あるいは講義後に、教示文と場面、①～⑨までの番号が記入された冊子が被験者に与えられた。そしてそれぞれの場面において、一般に人が行うと思われる行動をできるだけ詳しく、順番に挙げるように求めた。いくつかの場面には、開始、終了の行動を設定し、その間の行動を記述してもらった。冊子には 2つないし 3つの場面が設定してあり、ランダムに被験者を割り当てた。場面の割り当ておよび、有効回答数を Table2 に示す。生成、記述の時間は 15分～20分とした。各場面の人数の割り当てを Table3 に示した。

[第二調査(頻度評定調査)]

自由産出課題において、多くの被験者が産出する項目ほど、そのスクリプトにおいて重要なものであることが考えられる(太田他, 1991)。しかし、スクリプトにおいて、その行動の生じやすさ(例:Table1, 「レストランで食事をする」際に、「ナプキンをひざに置く」が、どのくらい生じるか)の認識も、スクリプト構造の調査において重要な課題と言えるだろう。

第一調査で得られたスクリプトの内、10%以上の産出率の得られた項目を列挙し、上述の 8場面において、項目がどの程度生じるかを被験者に無記名自記筆式の質問紙で判断してもらった。心身ともに健康な者 22名(平均年齢 33.5±10.7(SD)歳、男性 16名、女性 6名)を対象とした(K病院の看護師 17名、精神保健福祉士 1名、心理学を専攻するT大学の大学院生 4名)。K病院の看護師、精神保健福祉士に対しては、筆者の一人(H.A)が K病院に出向いて質問紙を配布し、1週間後にK病院に再度訪れ、質問紙を回収した。大学院生に対しては、質問紙を配布し、記入し終わった者から提出してもらった。

被験者は 8つのスクリプトがそれぞれ別個のページに記述された小冊子が渡された。教示文によって、それぞれの項目が、そのスクリプトにおいてどの程度起こりうるかを評定するよう教示された。評定尺度は 5:よく起こる、4:しばしば起こる、3:時々起こる、2:あまり起こらない、1:めったに起こらない、の 5段階評定である。調査時期は 2005年 7月～8月であった。

[第三調査(重要度評価調査)]

自由産出課題において、多くの被験者が産出する項目ほど、そのスクリプトにおいて重要なものであることが指摘されている(坂根他, 1981; 太田他, 1991)が、本調査においてもそのような関係が成立するかについて検討した。

第二実験と同様、第一実験で得られたスクリプトの内、10%以上の産出率の得られた項目を列挙し、上述の9場面において、それぞれのスクリプトにおける個々の項目がどの程度重要かを被験者に評定してもらった。対象は、心理学を専攻するT大学大学院生とその家族、友人等16名(平均年齢29.8±10.3(SD)歳、男性7名 女性9名)であった。回収の方法は、大学院生については、質問紙を配布し、記入し終わった者から提出してもらった。家族、友人については大学院生に調査用紙を配布してもらい、記入し終わった者から提出してもらった。

第二実験同様、被験者は8つのスクリプトがそれぞれ別個に記述された小冊子を渡され、教示文によって、それぞれの項目がそのスクリプトにおいてどの程度重要か評定するよう教示された。評定尺度は5:とても重要である、4:重要である、3:どちらでもない、2:重要でない、1全く重要でない、の5段階評定である。調査時期は2005年8月であった。

Table2 自由産出調査における場面の割り当て及び有効回答数

	場面	有効回答	場面	有効回答
T 短期大学				
冊子 1	映画館	23名(男性15, 女性8)	デパート	22名(男性15, 女性7)
冊子 2	電車	21名(男性3, 女性18)	タクシー	21名(男性3, 女性18)
H 大学				
冊子 1	映画館	29名(男性23, 女性6)	デパート	18名(男性13, 女性5)
冊子 2	電車	33名(男性19, 女性14)	喫茶店	29名(男性15, 女性14)
T 大学				
冊子 1	スーパー	53名(男性32, 女性21)	タクシー	54名(男性33, 女性21)
冊子 2	カレー	38名(男性24, 女14)	レストラン	37名(男性23, 女性14)
T 大学共通	病院	91名(男56, 女35)		

Table3 自由産出調査における各場面の割り当て及び有効回答数

スクリプト	有効回答
① 映画館で映画を観る	52名(男性38, 女性14)
② デパートで服を買う	40名(男性28, 女性12)
③ 電車に乗る	54名(男性22, 女性32)
④ タクシーに乗る	54名(男性33, 女性21)
⑤ 喫茶店で飲食する	29名(男性15, 女性14)
⑥ スーパーで買い物をする	53名(男性32, 女性21)
⑦ カレーを作る	38名(男性24, 女性14)
⑧ レストランで食事をする	37名(男性23, 女性14)
⑨ 風邪を引いて医師にかかる	91名(男性56, 女性35)

3. 結果

[調査 1]

各被験者によって生成された項目から同意味と思われるものを集計し、それぞれの項目の頻度を算出した。坂根他(1981)に基づき、有効回答数の19%以上の頻度で生成された項目を、比較的被験者間で一致する項目とみなした。60%以上の被験者において産出された項目群を「高産出項目」、35%~59%の被験者において算出された項目群を「中産出項目」、19%~34%の被験者において算出された項目群を「低産出項目」とした。同時にそれらの項目の頻度および重要度も産出した(Table 4~12 参照)。

1981年の調査の1場面あたりの平均人数(先行研究と本研究において重複する8場面、①映画館に行く、②デパートで服を買う、③スーパーで買い物をする、④カレーを作る、⑤電車に乗る、⑥喫茶店で飲食する、⑦レストランで食事をする、⑧タクシーに乗る、の平均)が32名であるのに対して、2005年の調査の1場面あたりの平均人数は44.5名であった。一方1981年の調査において、上述の8場面の19%以上の頻度を持つ項目数の平均は24.5個であるのに対し、2005年の調査においては13.5個であった。

本研究において、新たに19%以上の産出率を持つものとして加わった項目は以下の通りである。

「映画館に行く」: ①観る映画を決める、②映画について友人と会話する、③ごみを捨てる、「デパートで服を買う」: ①他にも何着か探す、「スーパーで買い物をする」: ①カートに戻す、「電車に乗る」: ①席を立てて出口近くで待つ、「喫茶店で飲食する」: ①店員を呼ぶ、食後休憩する、「レストランで食事をする」: ①席に案内される、②店員を呼ぶ。この中には、レストランにおける「店員を呼ぶ」、や「席に案内される」といった、時代の変化に伴ったものと考えられる項目も含まれるが、本研究で新たに加わった1場面辺りの平均項目数は1.2個であり、そのような項目が19%以上の産出率を持つことは少ないことがうかがわれた。

[第二調査]

各場面における頻度評価評定値を Table 4~12 に示した。

各場面において、頻繁に行われる行為(頻度評定値が高い)ほど、自由産出課題における産出率が高いか否かを調べた。まず、「高産出項目」、「中産出項目」、「低産出項目」各々において、8場面の頻度評定値平均を算出した(Table 13 参照)。そして、産出項目(高、中、低)を独立変数、頻度評定値を従属変数とした1要因の分散分析を行った結果、産出項目の効果が有意であった($F(2,106)=9.48, p<.01$)。Tukeyの方法を用いた多重比較の結果、「高産出項目」、「中産出項目」がそれぞれ「低産出項目」よりも5%水準で有意に頻度評定値が高いことが明らかになった。

[第三調査]

各場面における重要度評価評定値を Table 4~12 に示した。

坂根他(1981)にしたがい、各場面において重要と認識される行為(重要度評定値が高い)ほど、自由産出課題における産出率が高いか否かを調べた。「高産出項目」、「中産出項目」、および「低産出項目」各々において、8場面の重要度評定値平均を算出した(Table 13 参照)。第二調査同様、産出項目(高、中、

低)を独立変数,重要度評定値を従属変数とした1要因の分散分析を行った結果,産出項目の効果が有意であった($F(2,106)=8.80, p<.01$)。Tukeyの方法を用いた多重比較の結果,「高産出項目」が「中産出項目」,「低産出項目」よりも5%水準で有意に重要度評定値が高い結果となった。

Table4 レストランで食事する

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<レストランに入る>					
		<u>席に案内される</u>	.24	4.23(0.92)	4.06(0.90)
		席を探す	.35	4.41(0.96)	4.56(0.79)
席に着く			.78	4.68(0.78)	4.94(0.24)
メニューを見る			.78	4.73(0.70)	5.00(0.00)
注文品を決める			.73	4.68(0.78)	5.00(0.00)
	<u>店員を呼ぶ</u>		.43	4.27(1.03)	4.31(0.68)
注文する			.84	4.73(0.77)	5.00(0.00)
		お手拭を使う	.22	4.27(01.03)	4.00(0.84)
		水を飲む	.35	4.55(0.86)	4.06(0.75)
料理が来るまで待つ			.62	4.73(0.70)	4.63(0.48)
		同伴者と話をする	.30	4.45(0.91)	4.06(0.83)
	料理が来る		.59	4.68(0.78)	4.88(0.50)
食事をする			.97	4.82(0.66)	5.00(0.00)
	食べ終わる		.19	4.73(0.77)	4.81(0.39)
	席を立つ		.43	4.55(0.86)	4.00(1.37)
	レジまで行く		.38	4.68(0.78)	5.00(0.00)
お金を支払う			.84	4.68(0.78)	5.00(0.00)
<レストランを出る>					

Table4-12 において共通の註

[註 1] 下線の引かれた項目は本研究で新たに加わった項目

[註 2] 高産出項目: 60%以上の被験者において産出; 中産出項目: 59%~35%の被験者において産出
低産出項目: 34%~19%の被験者において産出

[註 3] 産出率はその項目を何%の被験者が産出したかを, 頻度および重要度は全平均を示す。

[註 4] 頻度・重要度評定値横の()内の数字はSDを示す。

[註 5] <>内の項目はあらかじめ提示された項目

Table5 タクシーに乗る(参考)

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
	手を挙げる		.39		
		タクシー乗り場に行く	.19		
	タクシーが止まる		.41		
タクシーに乗り込む			.80		
行き先を運転手に告げる			1.0		
運転手と会話する			.60		
目的地に着く			.70		
お金を支払う			1.0		
		お礼を言う	.35		

<タクシーを降りる>

[註1] タクシーの呼び方は多岐に渡るため、この場面には開始条件を設定しなかった。

[註2] 頻度、重要度調査が間に合わず、産出率のみ示してある。

Table6 映画館に行く

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<映画館に入る>			—	—	—
		<u>観る映画を決める</u>	.23	3.65(1.43)	4.44(1.17)
チケットを買う			.71	5.00(0.00)	4.88(0.33)
		チケットを見せる	.29	4.70(0.76)	4.50(1.06)
	飲み物を買う		.52	3.58(1.19)	2.06(0.83)
	食べ物を買う		.40	3.33(1.18)	2.06(0.83)
	ホールに入る		.42	4.92(0.28)	4.81(0.53)
席を探す			.73	4.35(0.93)	4.56(0.50)
	席に座る		.54	4.50(0.87)	4.25(0.75)
映画を観る			.94	5.00(0.00)	4.94(0.24)
		トイレに行く	.35	3.58(1.19)	3.25(1.15)
		<u>映画について友人と会話する</u>	.19	4.04(0.88)	3.13(1.03)
		映画が終わる	.27	4.57(0.90)	4.81(0.53)
	席を立つ		.46	4.13(1.25)	4.13(1.27)
		<u>ごみを捨てる</u>	.33	3.67(1.11)	2.81(1.18)
		ホールを出る	.23	4.09(1.19)	4.81(0.53)
<映画館を出る>			—	—	—

Table7 電車に乗る

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<乗車駅に着く>					
		時間表を見る	.37	4.25(0.62)	4.31(0.98)
切符を買う			.80	4.67(0.65)	4.88(0.33)
	改札口を通る		.59	3.92(1.00)	3.94(1.25)
	ホームに行く		.52	4.75(0.62)	4.81(0.73)
電車を待つ			.65	4.67(0.57)	3.88(1.27)
		電車が来る	.33	4.13(1.25)	4.69(0.77)
電車に乗り込む			.96	4.75(0.62)	5.00(0.00)
	席を探す		.44	4.50(0.67)	3.13(1.27)
席に座る			.76	4.08(1.00)	2.88(0.93)
		車窓を眺める	.19	4.33(0.65)	2.81(1.18)
		<u>席を立てて出口</u>	.19	3.87(1.01)	3.75(1.15)
		<u>近くで待つ</u>			
	降車駅に着く		.41	4.92(0.29)	4.81(0.73)
電車を降りる			.72	4.92(0.29)	5.00(0.00)
	改札口を出る		.50	4.92(0.29)	4.75(1.54)
<降車駅を出る>					

Table8 スーパーで買い物をする

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<スーパーに入る>					
買い物かごを取る			.96	4.82(0.39)	4.38(0.78)
	商品を見ながら歩く		.42	4.77(0.53)	4.56(0.61)
		野菜売り場に行く	.21	—	—
		肉売り場に行く	.21	—	—
		商品の値段を見る	.21	4.82(0.50)	4.69(0.46)
買うものをかごに入れる			.68	4.82(0.39)	4.38(0.78)
		野菜を買う	.26	—	—
		肉を買う	.25	—	—
レジに行く			.64	4.95(0.21)	5.00(0.00)
		レジに並ぶ	.32	4.91(0.29)	4.75(0.56)
お金を払う			.89	4.82(0.50)	5.00(0.00)
買ったものを袋に入れる			.85	4.73(0.55)	4.62(0.62)
	かごを戻す		.58	4.82(0.39)	4.19(1.05)
		<u>カートに戻す</u>	.19	4.59(0.80)	4.13(0.86)
<スーパーを出る>					

【註】『野菜売り場に行く』、『肉売り場に行く』は『商品を見ながら歩く』の、『野菜を買う』、『肉を買う』は『買うものをかごに入れる』の下位概念と判断されたので、頻度評定、重要度評定は行っていない。

Table9 デパートで服を買う

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<服の売り場に行く>			—	—	—
自分のほしい服を探す			.80	4.92(0.29)	5.00(0.00)
気に入った商品を見つめる			.63	4.00(0.85)	4.38(1.05)
	値段を確認		.41	4.92(0.29)	4.87(0.34)
試着する			.66	3.75(0.75)	4.31(0.77)
		店員に似合うか聞く	.29	3.17(0.94)	2.63(1.17)
	<u>他にも何着か探す</u>		.44	4.50(0.52)	4.31(0.46)
	買うことに決める		.46	4.58(0.67)	4.81(0.39)
	レジに行く		.37	4.92(0.29)	4.88(0.33)
代金を支払う			.80	4.92(0.29)	4.94(0.24)
		<u>商品を袋詰めしてもらう</u>	.20	4.68(0.65)	4.00(1.17)
<服の売り場を出る>			—	—	—

Table10 カレーを作る

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<用具, 材料を用意する>			—	—	—
	材料を洗う		.38	4.68(0.89)	4.75(0.56)
	ご飯を炊く		.22	4.68(0.89)	4.88(0.33)
		野菜の皮をむく	.22	4.73(0.88)	4.94(0.24)
	材料を切る		.57	4.73(0.88)	4.88(0.48)
		鍋に油を引く	.19	4.68(0.95)	4.75(0.43)
	材料を炒める		.46	4.73(0.88)	4.81(0.39)
鍋に水を入れる			.76	4.73(0.88)	4.94(0.24)
		あくをすくう	.30	4.50(1.01)	4.81(1.09)
カレールーを入れる			.86	4.68(0.95)	4.94(0.24)
煮込む			.65	4.73(0.88)	5.00(0.00)
		食器を用意する	.22	4.73(0.88)	4.81(0.53)
	ご飯を器に盛る		.57	4.73(0.88)	4.69(0.68)
カレーをよそう			.84	4.68(0.95)	4.88(0.48)
<カレーを食べる>			—	—	—

【註】『ご飯を炊く』、『煮込む』は被験者によって順番が様々であったため、一番多く産出された箇所にとめた。

Table11 喫茶店で飲食する

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<喫茶店に入る>					
	席を探す		.48	4.45(4.45)	4.44(1.06)
		席まで行く	.22	4.41(0.80)	4.44(0.90)
席に着く			.85	4.77(0.87)	5.00(0.00)
メニューを見る			.70	4.68(0.89)	4.88(0.33)
		何を注文するか 決める	.21	4.68(0.89)	4.63(0.99)
		店員を呼ぶ	.27	4.27(0.98)	4.06(1.03)
注文する			.79	4.73(0.88)	4.94(0.24)
		来るのを待つ	.27	4.67(0.91)	4.69(0.46)
飲食物が運ばれる			.61	4.68(0.95)	4.88(0.33)
飲食する			.82	4.73(0.88)	5.00(0.00)
		飲食し終わる	.33	4.73(0.88)	4.81(0.39)
		食後、休憩する	.19	4.32(0.99)	3.75(1.15)
	席を立つ		.39	4.50(1.06)	4.31(1.10)
会計をする			.67	4.73(0.88)	5.00(0.00)
<喫茶店を出る>					

Table12 風邪を引いて医師にかかる

高産出項目	中産出項目	低産出項目	産出率	頻度	重要度
<病院に入る>					
受付に行く			.72	4.73(0.77)	4.88(0.33)
		問診表に記入	.25	4.36(0.85)	4.50(1.00)
		診察券を出す	.30	4.64(0.79)	4.56(0.70)
		保険証を出す	.31	4.55(0.80)	4.44(0.61)
		席に座る	.24	4.68(0.84)	3.63(0.86)
待つ			.73	4.68(0.84)	4.63(0.60)
		熱を測る	.26	4.45(0.91)	4.56(0.61)
名前を呼ばれる			.61	—	—
	診察室に入る		.57	4.68(0.84)	4.94(0.24)
	症状を告げる		.55	4.73(0.77)	5.00(0.00)
診察を受ける			.89	4.73(0.77)	4.88
	診察室を出る		.46	4.68(0.84)	4.56(0.70)
	待つ		.44	4.59(0.85)	3.94(1.14)
		名前を呼ばれる	.25	—	—
	薬を受け取る		.48	4.36(0.90)	4.44(0.93)
		処方箋を受け取る	.21	3.62(1.66)	4.31(1.10)
診察料を支払う			.82	4.73(0.77)	5.00(0.00)
病院を出る			.71	4.73(0.77)	4.63(0.99)

[註] 院外処方を考慮して、この場面には終了条件を設定しなかった。

Table13 頻度評定, 重要度評定の各評定値の平均と SD

	頻度評定(SD)	重要度評定(SD)
高産出項目(39)	4.69(±.25)*	4.77(±.40)*
中産出項目(33)	4.56(±.36)*	4.39(±.72)*
低産出項目(37)	4.35(±.40)	4.21(±.62)

【註 1】 各評定値は全場面の評定値の平均を示す

【註 2】 各産出項目の横の (): 項目数

【註 3】 * p<.05 を示す

4. 考察

今回の調査の目的は、現代のスクリプトの構造を調査し、1981年のスクリプト構造との比較をすることであった。本研究では、坂根他(1981)にしたがい、19%以上の産出率を持つ項目を被験者間に比較的共通の項目と定義し、その中で高産出項目、中産出項目および低産出項目の3項目に分類した。その結果、先行研究(坂根他, 1981)の自由産出課題における高頻度に含まれた項目が、本研究では中頻度に含まれるなど、個々の項目の産出率は双方で差が見られた。また、本研究で新たに生じた項目に着目すると、時代の変化、すなわちスクリプトのシステムが変わったことを反映していると思われる項目がいくつか見られた。例えば、映画館のホールの出口にゴミ箱を設置するサービスが主流になってきたことを反映して、「ごみを捨てる」が本研究の「低産出項目」に新たに含まれるようになったと考えられる。同様に、レストランで席まで店員が案内するようになったために、「(店員に) 席まで案内される」が、レストランや喫茶店で店員呼び出しブザーがついた店が多くなったため、「店員を呼ぶ」の項目が生じた点も、時代の変化を反映したスクリプト構造の変化と捉えられるだろう。しかし、本研究で新たに加わった項目は、1つの場面につき平均1.2個程度であり、かつ、高頻度産出群に新たに加わった項目は見られないことより、以上の変化は大きなものということではできない。

また、「風邪を引いて医師にかかる」のスクリプトについて、1981年の調査には含まれていなかったが、院外処方の適用など、現在における状況の変化や、今後、精神障害患者に関する検討を行う際、なじみのあるスクリプトとして、今回調査に入れた。薬をどこで受け取るかに着目したところ、「受付で薬を受け取る」の項目が48%の産出率であった。そして、「薬局で薬を受け取る」の項目は18%に過ぎなかった。このことより、場面(スクリプト状況)のシステムが変わりつつある途上では、人のスクリプトの構造まで即座に変化が生じるわけではないと考えられる。

他方、1981年の調査にあって、本調査において無くなった項目が比較的多いことも特徴と言える。しかし、この変化は、先行研究と本研究の総産出数の違い、すなわち、本研究においては、産出数が少ないために細部の産出が少なくなったためと考えられる。総産出数の違いはスクリプトの精緻化の度合いを示す指標であることが考えられる(坂根他, 1981)。しかし、この結果はスクリプトの精緻化の度合いを示すものというより、調査条件、とくに産出時間(本調査においては、15分~20分、先行研究では30分)の差が関与しているかもしれない。このことが、先行研究と本研究における、高頻度、中頻度および低頻度の構成項目の差異にも反映された可能性がある。それにも関わらず、先行研究に

において「高産出項目」に含まれた項目が、本研究において19%以上の産出項目から外れたケースは少ない。このことから、スクリプトの骨子が1981年前と大きく変化していないことが明らかとなったといえる。

頻度評定調査および重要度評定調査の結果より、自由産出課題における産出率の高い項目ほどそれぞれの場面において頻繁に生じ、重要と認識されることが示された。スクリプトの自由産出課題における産出率と重要度の認識に関しては坂根他(1981)の指摘と一致するが、本結果ではさらに、スクリプトの産出率と、その項目がどの程度頻繁に生じるかの認識の関連性も明らかにした。

本結果から、2005年におけるスクリプトの骨子は先行研究と比較して大きな変化が見られなかったこと、さらに、スクリプトは、場面のシステムが変化しても即座に変容するものではないことが明らかとなった。今後の検討事項のひとつとして、本調査および先行研究では、大学生、短大生(18~22歳)という限られた年齢層による比較であったので、より幅広い年齢層の調査や、性別による差異の検討が今後の課題といえるだろう。また、今回「風邪を引いて医師にかかる」の場面でのスクリプト構造の知見が得られたが、これは、経験の度合いによるものかもしれない。そのため、病院になじみの深い者(病院職員等)とそうでない者のスクリプトの比較を行うことが望ましいかもしれない。

5. 要約

本研究では、現代のスクリプト構造の基礎資料を収集するため、3つの調査(自由産出調査、頻度評定調査、重要度評定調査)を行い、坂根他(1981)の調査結果との比較を行った。自由産出調査の結果、1981年のスクリプト構造と現代のスクリプト構造には大きな差が見出されないことが明らかとなった。また、スクリプト項目の頻度評定ないしは重要度評定との関連から、自由産出における産出率の高いスクリプト項目ほどそれぞれの場面において頻繁に生じ、重要と認識されることが示された。

謝辞

本研究は平成16年度-平成18年度日本学術振興金科学研究費補助金(基盤研究C、課題番号16530445)の助成を受けている。本調査のデータ収集に関してご協力いただいた、富山医科薬科大学心理士の結城博実さん、富山医科薬科大学大学院医学系研究科心理学教室の笠井悠一君、扇暁子さんおよび梅原修一君に感謝いたします。

註) 著者松井の所属は富山医科薬科大学医学部心理学教室および科学技術振興機構であり、第2著者荒井は富山医科薬科大学大学院医学系研究科医科学専攻心理学分野所属の修士課程2年である。

参考文献

- Bower, G.H., Black, J.B., & Turner, T.J. (1979) Scripts in memory for text. *Cognitive Psychology*, 11, 117-220.
- Chan, A.S., Chiu, H., Lam, L., Pang, A., & Chow, L. (1999) A breakdown of event schemas in patient with schizophrenia: An examination of their script for dining at restaurants. *Psychiatry Research*, 87, 169-181.
- Corrigan, P.W., Wallace, C.J., & Green, M.F. (1992) Deficits in social schemata in schizophrenia. *Schizophrenia Research*, 8, 129-135.
- Matsui, M., Sumiyoshi, T., Yuuki, H., Kato, K., & Kurachi, M. (2005) Impairment of event schema in patients with schizophrenia: Examination of script for shopping at supermarket. *Psychiatry Research*, in press.
- 太田信夫・多鹿秀継 (1991). 認知心理学：理論とデータ 誠信書房, Pp114-118.
- 坂根道雄・桑原尚史・野村幸正 (1981). 知識構造における”要素”と”関係”について. 教育科学セミナー, 13, 39-55.
- Schank, R.C. (1980) Language and memory. *Cognitive Science*, 4, 243-284.
- Schank, R.C., & Abelson, R.P. (1977) Scripts, plans, goals, and understanding. *Lawrence Erlbaum Associates. Hillsdale, New Jersey*; P. 248.

